

監視付き変換ソフト

KDauto_transPostScript機能強化版



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056

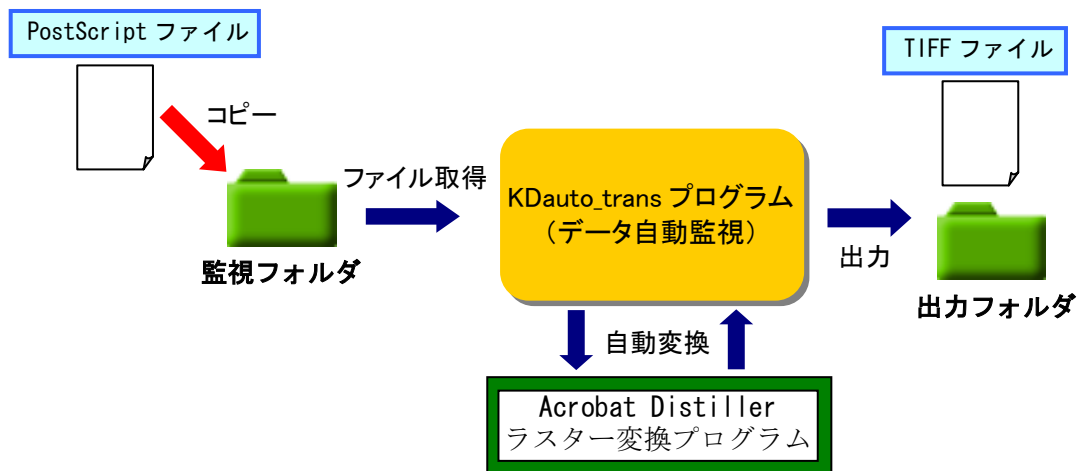
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

【概要】

KDauto_transPostScript 機能強化版は KDauto_trans 機能強化版に PostScript ファイルからラスターファイルへの変換機能を追加した製品となります。

KDauto_transPostScript 機能強化版は監視フォルダを監視し、監視フォルダ内にあるファイルを対応アプリケーションと「ラスター変換プログラム」を使用して変換を行います。変換により作成されたファイルは出力フォルダへ出力されます。出力フォルダへ出力されたファイルに対して印刷（標準か別売）、FTP 転送を行うことができます。これら変換、出力、印刷、FTP 転送の設定は監視フォルダ毎に指定することができます。

1. PostScript ファイルを TIFF ファイルに変換します。



【特長】

1. DTP ファイルを TIFF などのラスターファイルに変換することが可能です。(DTP ファイルを読み込めるソフトが別途必要になります。WORD ファイルなら Microsoft Office、PDF ファイルなら Adobe Acrobat が必要になります) 変換可能な DTP ファイルの拡張子と変換に必要なソフトのバージョンは次の通りです。

DTP ファイル	バージョン	拡張子
MS-WORD	2000/XP/2003/2007/2010	doc, rtf, dot, docx, dotx
MS-EXCEL	2000/XP/2003/2007/2010	xls, xlw, xjs, csv, xlt, xlsx, xltx
MS-PowerPoint	2000/XP/2003/2007/2010	ppt, pps, pot, pptx
MS-Project	2002/2003/2007/2010	mpp, mpt
Microsoft Visio	2000/2002/2003	vsd, vss, vst
Adobe Acrobat (PDF, PostScript)	5.0/6.0/7.0/8.0/9.0/X.x	pdf, ps
FujiXerox DocuWorks (XDW)	5.0/6.0/7.0	xdw
HTML		html, xml
TEXT		txt

2. DTP ファイルを PDF ファイル（イメージ形式）に変換する場合は、PDF ファイルにパスワードによるセキュリティを設定することが可能です。パスワードは DTP ファイル名（全角文字が無いこと）か任意の文字列を使用することが可能です。
3. PDF ファイルを TIFF などのラスターファイルに変換するには Adobe Acrobat が必要になります。Adobe Acrobat 5.0/8.0 を使用する場合は PDF ファイルの用紙のサイズと用紙の向きが変換結果の用紙サイズと用紙の向きに合わない場合があります。

4. PDF ファイルからイメージ抽出を行い、そのイメージを変換して出力することが可能です。
 イメージが無いページは白紙ページになります。一部分のみイメージの場合はイメージの部分のみ出力されます。
 PDF ファイルのバージョンが PDF1.7 Adobe Extension Level 8 の場合は抽出することができません。
 JPXDecode (JPEG2000), JBIG2Decode (JBIG2) で圧縮されている場合は変換できません。
 KDdriver を使用して PDF ファイルを変換する場合と PDF ファイルからイメージを抽出する場合での違いは以下のようになります。

PDF ファイルの内容	KDdriver から変換	イメージ抽出から変換
ベクター（文字や罫線など）データ	変換可	白紙
ラスター（イメージ）データ	変換可	変換可
ベクターラスター混在データ	変換可	ラスター部分のみ変換可
大判データ	出力解像度を低くする必要がある	出力解像度を低くする必要はない
Adobe Acrobat	必要	不必要
PDF 上で回転・歪みのあるデータ	見た目通りに変換	見た目と異なる場合がある
カラーイメージデータをモノクロで出力する場合のディザ処理	パターンディザ	ディザなし、誤差拡散、パターンディザから選択

5. パスワードによるセキュリティが掛かっている PDF ファイルを変換する場合は、事前に解除するパスワードを設定しておくことで変換が可能になります。
 PDF ファイルのバージョンが PDF1.7 Adobe Extension Level 8 の場合はパスワードを解除することができません。
6. 複数の DTP ファイルを TIFF などのラスターファイルに変換してひとつのファイルに纏めることが可能です。
 ラスターファイルは TIFF などのマルチページが可能なフォーマットである必要があります。
7. 監視ディレクトリ毎にラスターファイルの変換方法を指定することが可能です。
8. 監視ディレクトリを最大 200 個まで指定できます。
 監視ディレクトリ内のファイルは日付の古い順かファイル名の昇順かコピー順でピックアップされます。
9. 監視ディレクトリはローカルフォルダと共有フォルダのどちらでも指定することができます。
 共有フォルダは読み書きが許可されている必要があります。
10. 監視ディレクトリ毎に監視開始時間、監視終了時間、監視有効、監視無効の設定が可能です。
 監視ディレクトリの監視有効、監視無効の設定は KDauto_trans 実行中でも変更することが可能です。（実行中に監視無効に変更した場合は、変更前にピックアップされていたファイルについては変換処理を行います）
11. 監視ディレクトリ以下のディレクトリにあるファイルを処理することが可能です。処理されたファイルは指定された出力先に、監視ディレクトリ以下のディレクトリ構成と同じディレクトリ構成を作成してそこに出力します。
12. 監視ディレクトリ毎に任意の出力先を指定することが可能です。
13. 出力先はローカルフォルダと共有フォルダのどちらでも指定することができます。
 共有フォルダは読み書きが許可されている必要があります。
14. 処理後の出力ファイル名を指定することができます。Windows 版は監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名＋指定拡張子、監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名＋日付＋指定拡張子、日付＋指定拡張子の 3 種類から選択できます。
15. 変換処理の履歴を保存しておく履歴ファイルの生成が出来ます。実行時間や変換結果などの履歴情報の確認ができます。XML フォーマットの履歴ファイルを作成することもできます。
16. 変換処理の内容をメールで送信することも可能です。変換処理が NG の時のみメールを送信したり、常に結果をメール送信したりすることができます。変換処理が NG の場合は変換元ファイルをメールに添付することができます。
17. 処理後の出力ファイルを印刷することが可能です。プリンタドライバ経由（データ変換は行わない）で印刷を行います。処理後の出力ファイルが出力先プリンタで出力可能なフォーマットになっている必要があります。
 弊社の印刷関連製品を使用して印刷することも可能です（例えば KDprintout for driver など。印刷関連製品を組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせ下さい（別売））。
 弊社以外の印刷関連製品を使用して印刷することも可能です（例えば lpr.exe など）。使用できる印刷プログラムはコマンドプロンプト上からコマンドラインで実行可能なこと、コマンドラインの形式が「出力プログラム名 オプション 出力ファイル名」であることが条件となります。画面操作が必要なプログラムは使用できません。
18. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用して DTP ファイルからラスターファイル変換以外の変換を自動処理することが可能です。殆どの KD コンバートシリーズが組み合わせ可能ですが、組み合わせることが出来ないものもあります。
 （購入を考えている KD コンバートシリーズまたは購入済みの KD コンバートシリーズが組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせ下さい）
19. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用した変換と DTP ファイルからの変換のファイルフォーマットが同じ場合は、同じファイルに纏めて出力することができます。
 （購入を考えている KD コンバートシリーズまたは購入済みの KD コンバートシリーズが組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせ下さい）
20. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用して対になる 2 つの新旧ファイルを比較して比較結果を出力することが可能です。比較可能 KD コンバートシリーズは HPMGHP、PDFMGPDF、XDWMGXDW です。
21. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用して複数の図面サイズのファイルを指定図面サイズにレイアウトして出力することが可能です。レイアウト可能 KD コンバートシリーズは HPLAYHP、RSCMP3RS です。
22. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用して大判サイズのデータを定型または任意のサイズに分割することが可能です。分割可能 KD コンバートシリーズは RSDV3RS、RSDV4RS、RSDV3PST です。

- 2 3. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用して変換元データの情報を変換と同時に出力することが可能です。情報出力可能 KD コンバートシリーズはラスター変換プログラム（RS**）、DICOM 変換プログラム（DCM**）です。ラスター変換プログラムでは Exif 情報を、DICOM 変換プログラムではタグ情報を出力します。変換元データにこれらの情報が無い場合は変換エラーとなります。
- 2 4. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）で使用する設定ファイルを変換ファイルに合わせて自動的に選択して変換することが可能です。変換前に任意に指定したディレクトリに、変換ファイルと同名の設定ファイル（拡張子は任意）を作成しておく必要があります。設定ファイルが存在しない場合は変換エラーとなります。**(Windows 版のみ)**
- 2 5. 監視ディレクトリにフォーマットの違うファイルがあってもフォーマットを自動認識することができます。フォーマット認識はファイルの拡張子で行います。拡張子はフォーマット毎に最大 8 個まで指定できます。フォーマット毎に使用するデータ変換プログラムと出力先のディレクトリを指定することができます。
- 2 6. 上記のフォーマットの自動認識を行う場合に、指定外の拡張子を持つファイルをエラーにするか無視するかを選択できます。無視にした場合は、そのファイルは監視ディレクトリから削除されません。**(Windows 版のみ)**
- 2 7. KDauto_transPostScript 機能強化版の環境設定は GUI 画面から設定を行います。

KD コンバートシリーズとの組み合わせ例

1. KDraster コンバート（ベクター/ラスター）を購入して組み合わせることによって DXF/DWG/HP-GL/OFI 等のファイルを TIFF 等のラスターファイルに変換することが可能になります。
2. KDraster コンバート（ラスター/ラスター）を購入して組み合わせることによって TIFF, JPEG, BITMAP 等のラスターファイルを TIFF, JPEG, BITMAP 等のファイルに変換することが可能になります。
3. KDprintout for driver（プリンタドライバ経由の印刷）を購入して組み合わせることによって、DXF/DWG/HP-GL/HP-GL2/OFI/Raster ファイルを任意のプリンタへ印刷することが可能になります。

【機能一覧】

KDauto_transPostScript 機能強化版の機能一覧です。

機能	OS	
	Windows	
	コマンドライン、 常駐プログラム起動	サービス起動
DTP ファイル変換処理(※1)	○	×
PDF ファイルからイメージの抽出(※2)	○	×
監視ディレクトリ最大数	200 個	200 個
監視ディレクトリの開始終了	○	○
監視ディレクトリの有効無効	○	○
階層処理	○	○
出力ファイル名(※3)	○	○
履歴の作成	○	○
メール送信	○	○
プリントマネージャで印刷(※4)	○	○
任意プログラムで印刷(※5)	○	○(※6)
KD コンバートシリーズで変換(※5)	○	○(※6)
複数ファイル処理(※7)	○	○(※6)
比較処理(※8)	○	○
レイアウト処理(※9)	○	○
分割処理(※10)	○	○
ファイル情報出力(※11)	○	○
FTP 転送	○	○
環境設定を GUI で行う	○	○

※1 : PostScript ファイルを変換する場合は Acrobat がインストールされている必要があります。(Acrobat Reader 不可)
PDF ファイルの場合は用紙のサイズと向きが合わない場合があります。

Acrobat6.0以降をインストールしている場合は Acrobat の印刷画面で用紙のサイズと向きを自動認識するように設定して下さい。

※2 : PDF ファイルのバージョンが PDF1.7 Adobe Extension Level 8 の場合はイメージ抽出することができません。

※3 : Windows 版は監視ディレクトリにコピーされたファイル名+指定拡張子、監視ディレクトリにコピーされたファイル名+日付+指定拡張子、日付+指定拡張子の3種類が指定できます。

※4 : 出力するプリンタが印刷可能なフォーマットに KD コンバートシリーズの変換処理で変換する必要があります。

※5 : 別途 KD コンバートシリーズを購入する必要があります。

※6 : DTP ファイルを変換・印刷する場合はサービス起動を行えません。

※7 : DTP ファイルをラスターファイルに纏める以外の処理を行う場合は、別途 KD コンバートシリーズを購入する必要があります。

※8 : Windows 版は HP-GL 同士、HP-GL/2 同士、PDF 同士、DocuWorks 同士のファイルが比較可能です。

別途 HPMGHP (HP-GL 同士、HP-GL/2 同士)、PDFMGPDF (PDF 同士)、XDWMGXDW (DocuWorks 同士) を購入する必要があります。

※9 : HP-GL、HP-GL/2、ラスターファイルがレイアウト可能です。

別途 HPLAYHP (HP-GL、HP-GL/2)、RSCMP3RS (ラスター) を購入する必要があります。

※10 : ラスターファイルが分割可能です。

別途 RSDV3RS、RSDV4RS、RSDV3PST を購入する必要があります。

※11 : ラスター、DICOM ファイルが可能です。

別途ラスター変換プログラム (RS**)、DICOM 変換プログラム (DCM**) を購入する必要があります。

【注意する点】

- Windows の OS を長時間（数ヶ月単位）再起動せずに使用すると環境により Windows の動作が不安定になる場合があります。これは、弊社アプリケーションのみの問題ではなく、Windows を含む、利用される全てのソフト・ドライバの複合要因であり発生した場合、原因の特定及び回避は全てのアプリケーションが関係している関係で、現状では不可能です。

長期間連続運用を行う場合、上記の問題が発生する事がありますので定期的な Windows の再起動を奨励いたします。

- PostScript ファイルを変換する場合、Acrobat を使用して PDF ファイルを変換する場合は本製品が使用されるクライアントに Acrobat のライセンスが必要となります。Acrobat のライセンスについては、アドビシステムズ社のライセンス契約に準拠して下さい。本製品では Adobe Acrobat 製品は管轄外となります。
- Acrobat Reader を使用して PDF ファイルを変換する場合はサーバーでの利用はできません。
- Acrobat5.0 か 8.0 がインストールされている環境で PDF ファイルを変換した場合は用紙サイズと向きが変換元と一致しない場合があります。この状態を回避するには Acrobat6.0 か 7.0 か 9.0 を使用するか KDauto_transPDF 機能強化版を使用して下さい。
- PDF ファイルの図形の中で極細線のような細い線を使用している場合、ラスター変換後にその線が設定解像度によって（1 ドットに満たない場合など）は消えてしまうことがあります。
- PDF ファイルからイメージを抽出する場合は JPXDecode (JPEG2000), JBIG2Decode (JBIG2) で圧縮されているイメージは抽出できません。
PDF ファイルのバージョンが PDF1.7 Adobe Extension Level 8 の場合はイメージの抽出はできません。
- PDF 上で回転・歪みを使用して表示しているイメージを抽出した場合、抽出したイメージは PDF 上の表示と見た目が異なる場合があります。
- タイリングパターンの一部として表示されているイメージは抽出できません。
- 使用されている色空間によって、抽出後に色合いが変わることがあります。
- DTP ファイルを変換時にダイアログが表示されてキー入力待ちになり処理が停止する場合があります。このような状態になった場合はダイアログをキャンセルして閉じようとはしますが、キャンセルできずにこの状態のまま処理が停止したままになることがあります。また、ダイアログがキャンセルできても変換そのものはエラーになる場合があります。
- パスワードによるセキュリティが掛かっている PDF ファイルの場合は、セキュリティを解除して変換することが可能です。セキュリティを解除するには解除するパスワードを設定しておく必要があります。
PDF のバージョンが PDF1.7 Adobe Extension Level 8 の場合はセキュリティを解除することはできません。
これ以外の PDF セキュリティや PDF ファイル以外でセキュリティが設定されているファイルは変換できません。
- KDraster Convert, KDcad Convert, KDprint Convert を使用して変換する場合、一部のオプションは使用できなくなります。使用できなくなるオプションはファイルをまとめて処理するようなオプションで、-BATCH, -MERGE 等です。

【自動起動（Windows 版のみ）】

- スタートアップに登録することでログイン後に自動起動することができます。
- サービスに登録することでマシン起動後、ログオフ状態で自動起動することができます。
(DTP ファイル (WORD, EXCEL, PDF など) を変換するような場合には使用できません)
- サービス登録以外の方法でログオフ状態の自動起動には対応していません。

【対応マシン】

Windows2000, WindowsXP, Windows Server 2003, WindowsVista, Windows Server 2008, Windows 7
※32ビットOSのみ対応。

【VMware】

VMware上のWindowsXP(32bit)で実行可能です。

ネットワークフォルダを使用できません。

VMware上で動作可能なKDコンバートソフトのみ組み合わせることが可能です。

管理者権限の無いログインユーザーでは実行できません。

【価格】

KDauto_trans(PostScript機能強化版) : 50万円(税抜き)

※KDraster Convert、Kdcad Convert、KDprint Convert、KDprintout for driverは別途購入が必要です。

※KDauto_transPostScript機能強化版にはKDdriver for Windows2000またはXP、Vistaが同封されています。